

(案)

ともに守り,ともに育む  
水と緑と笑顔がおりなす  
持続可能なまち 調布

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

調布市は  
「2050年ゼロカーボンシティ」  
を目指しています

# 調布市環境基本計画

概要版

令和8(2026)年度 ➡ 令和17(2035)年度

令和8(2026)年●月

調布市







# ●市民参加による計画策定

計画  
本編

p. ● ~  
資料編

本計画の策定に際しては、多くの市民の皆さんから調布市の環境に対する認識や今後の調布市の環境に関する取組などについてご意見をいただき、計画策定の参考とするため、市民意識調査やワークショップなどの市民参加の手法を実践しました。

## (1) 市民意識調査

満16歳以上から無作為抽出した市民3,000人を対象に実施しました。  
＜調査期間：2025年4月30日～5月21日、回収数1,323票、回収率44.1%＞

### ●寄せられた意見(抜粋)

環境問題の認識では、回答者の7割超が「地球温暖化の進行」を危機的と捉え、次いで「食品ロス」「緑の減少」への危機感が高い結果でした。

日常行動では「ごみの分別」「エコバッグ持参」「エアコンの適正温度設定」などは9割以上が実施している一方、「環境学習への参加」は未実施が多く、学習機会の提供とプログラムの拡充が課題です。

調布の将来に残したい場所としては「多摩川や野川の水辺空間」と「深大寺界限」が7割超となり、水辺・歴史文化資源への評価が高い結果でした。

環境活動に「参加したことがなく今後も参加したいとは思わない」層が増えていること、参加しない理由として若年層(16～29歳)では「参加する時間がない」が8割超であることから、短時間・身近な場所で参加できる仕組みづくりが重要と言えます。

たくさんのご意見、ありがとうございました



## (2) 市民ワークショップ

市民が主体的に参加し、環境に関する現状や課題について話し合い、調布市の環境をより良くしていくための意見を出し合う場として、2回にわたって開催しました。

### ●開催日及びテーマ

【第1回】令和7年6月15日(日)

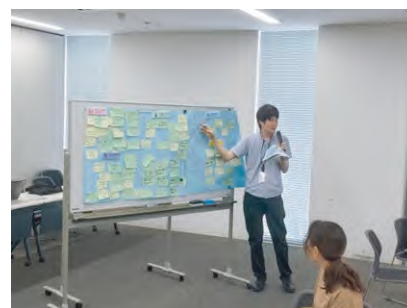
(テーマ) 調布市の環境の良いところ、改善すべきところ

【第2回】令和7年9月7日(日)

(テーマ) 調布市の環境をより良くする具体的な取組と水平展開のアイデア



ワークショップの様子



発表の様子

## (3) 調布市環境未来座談会(学生ワークショップ)

将来を担う若い世代の意見やアイデアを募る場として、高校生・大学生年代を対象にオンラインで座談会を実施しました。

### ●開催日 令和7年9月13日(土)



開催中の画面



# 2 調布市の環境の特徴と課題

計画  
本編

p.1~

第1章 計画策定の背景

調布市は、多摩川・野川の水辺や国分寺崖線の緑地、都市農地など、水と緑が身近にあるまちです。

一方で、気候変動の影響や都市化の進行、資源・エネルギー制約などにより、自然環境の保全と暮らしの質の両立が求められています。

## (1) 調布市の環境の特徴

- 多摩川・野川などの水辺と、国分寺崖線の樹林地が残り、都市の中に多様な自然環境が点在しています。
- 樹林地・公園・農地が連続することで、生きものが行き来できる環境（つながり）や里山の風景が形成されています。
- 身近な緑や水辺は、風景の形成・憩いの場の提供のみならず、暑さの緩和や雨水の流出抑制など、生活を支える機能も担っています。
- 市民団体等による環境保全活動や環境学習活動の積み重ねにより、協働の土台が築きあげられています。



仙川崖線緑地



雑木林ボランティア講座

## (2) 環境を取り巻く主な課題

### ● 水と緑の質・つながりの維持

樹林地や水辺環境は、管理の担い手不足や外来種等の影響により、質の維持・向上が課題となっています。

生物多様性を支える環境を保全・再生し、自然環境の現状把握（調査・モニタリング）を継続する必要があります。

### ● 快適で安全な生活環境の確保

大気・水質・騒音等の監視と対策を継続し、公害のない環境を維持する必要があります。  
化学物質等への適正な管理・情報提供を進め、市民の不安低減と安心の確保につなげることが重要です。

### ● 脱炭素と資源循環の加速

2050年ゼロカーボンの実現に向け、省エネ・再エネ導入、移動の脱炭素化など、暮らしと事業の転換が求められます。

ごみの発生抑制と資源化を進め、環境負荷とCO<sub>2</sub>排出の低減につなげることが重要です。

### ● 気候変動の影響への備えが必要

猛暑・豪雨などの影響が深刻化する中、熱中症対策や浸水リスクの軽減など、適応策の強化が求められます。

都市の防災・減災として、自然の力を生かした対策（雨水浸透・緑の活用等＝グリーンインフラ）も重要な視点になっています。

## (3) 本計画で目指すこと

≫ 水と緑を守り育て、生物多様性・うるおいのある風景の創出とともに、暑さ対策や防災・減災に生かす。

≫ 省エネ・再エネ・資源循環を一体で進め、ゼロカーボンと環境負荷低減を実現する。

≫ 市民・市民団体・事業者・市がそれぞれの役割を担い、学びと実践の循環で取組を広げる。



# 3 目指す環境像と施策の展開

計画  
本編

p.28～

第3章 目指す環境像と施策体系  
第4章 施策の展開

## (1) 基本理念と目指す環境の将来像

環境は長い歳月をかけて育むべきものであり、より良い環境の保全と回復に向け、取組を長期的な視点で推進していく必要があります。また、環境問題は一方的な取り組みではなく、一人ひとりの努力の積み重ねと地域コミュニティの連携も求められます。市民・市民団体・事業者・市が協力し、「笑顔あふれる」まちを守り育て、持続可能な環境づくりをしていかなければなりません。

こうしたことから、本計画では、前計画の基本理念及び目指す環境像を踏まえつつ、次のとおり掲げます。

基本  
理念

持続可能な地域社会の存続を図り  
すべての生き物が共存する  
地球環境を将来世代に引き継ぐ

目指す  
環境の  
将来像

ともに守り、ともに育む  
水と緑と笑顔がおりなす  
持続可能なまち 調布

## (2) 基本目標と施策の体系

本計画が目指す環境の将来像の実現に向け、5つの基本目標を定め、取組を進めます。

視点	基本目標	施策の方針	施策
地域を守る ▼ ▼ ▼ ▼ 地球を守る	1 いのちが 息づく水と 緑のまち	1-1 水と緑の 保全・再生	①水の保全・再生 ②緑の保全・創出 ③水辺と緑がおりなす伝統的な風景の保全・活用
		1-2 生物多様性 の保全と 向上	①生きものの生息・生育状況の把握 ②生物多様性の保全 ③外来生物対策の推進
	2 快適さと美し さが調和する 住みよいまち	2-1 快適な空間 の確保	①うるおいのあるまちづくりの推進 ②都市美化の推進
		2-2 公害のない 環境の維持	①大気汚染の防止 ②水質汚濁の防止 ③騒音・振動の発生抑制 ④化学物質等への対策の推進
	3 ゼロカーボン シティが実現 するまち	3-1 二酸化炭素 排出の削減	①住宅・建築物の省エネルギー化の推進 ②再生可能エネルギーの導入拡大 ③地域でのエネルギー・資源の循環と有効利用の推進
		3-2 気候変動への 適応	①気候変動への適応策の推進
	4 資源循環に より環境負荷を 低減するまち	4-1 3R の推進 による資源 循環	①ごみの発生・排出抑制 ②資源化の推進
環境行動を促す	5 学び合い 行動し合う 共創のまち	5-1 環境人材の 育成	①環境情報の発信と市民の意識醸成 ②次世代を担う子どもたちへの啓発と行動促進 ③環境学習施設や地域施設を活用した環境学習 の推進 ④環境活動の担い手の育成
		5-2 環境活動の 環の拡大	①多様な主体による環境学習と活動の展開 ②環境活動団体・個人の交流・連携の促進 ③事業者等との連携



基本  
目標 1

## いのちが息づく水と緑のまち

調布市に残る貴重な崖線樹林地、都市農地、多摩川や野川をはじめとする水辺環境等の自然環境やそこに息づく生態系を守り・育て、多様な生きものが息づくまちを目指します。



深大寺・佐須地域の農の風景

## 施策の方針・施策

## 1-1 水と緑の保全・再生

- ①水の保全・再生
- ②緑の保全・創出
- ③水辺と緑がおりなす伝統的な風景の保全・活用

## 1-2 生物多様性の保全と向上

- ①生きものの生息・生育状況の把握
- ②生物多様性の保全
- ③外来生物対策の促進

## 関連する主な環境指標

## 浸透施設等の設置による雨水の浸透能力

基準値(R6年度) 目標値(R17年度)  
134,074m<sup>3</sup>/h ➡ 191,549m<sup>3</sup>/h

## 公共が保全する緑の面積

基準値(R6年度) 目標値(R22年度)  
152.63ha ➡ 163ha

## 主な取組

- 雨水利用・雨水浸透の促進により、地下水の涵養や湧水の保全・再生と雨水流出抑制を進めます。
- 多摩川・野川などの水辺で、水質保全・美化・植生の保全・再生を進めます。
- 崖線緑地の保全や管理(協働による保全活動)を推進します。
- 社寺林・屋敷林など歴史のある地域の緑を維持・保全するための支援を図ります。
- 雑木林管理を担う人材の育成・活用を進め、継続的な保全体制を整えます。
- 自然環境調査の継続と情報の蓄積により、変化を把握し対策に生かします。
- 自然体験学習の機会を充実し、学びを環境保全活動や行動につなげます。
- 協働による外来生物の防除・啓発を進めます。

## みどり率

基準値(R6年度) 目標値(R22年度)  
33.0% ➡ 34.1%

## 自然体験学習の参加人数

基準値(H28年度～累計) 目標値(R8～R17年度累計)  
17,844人 ➡ 25,000人

## 調布市での取組



■宅地への雨水浸透ますの設置

■多摩川自然情報館イベント  
冬の生き物観察会

■多摩川河川敷での特定外来生物(植物)の駆除活動

基本  
目標 2快適さと美しさが調和する  
住みよいまち

都市美化の推進や、大気・水質の保全、悪臭・騒音・振動等の発生抑制、化学物質の適正使用・管理に係る施策を進め、安全・安心で快適に暮らせるまちを目指します。



河川での水質検査の様子

## 施策の方針・施策

## 2-1 快適な空間の確保

- ①うるおいのあるまちづくりの推進
- ②都市美化の推進

## 2-2 公害のない環境の維持

- ①大気汚染の防止
- ②水質汚濁の防止
- ③騒音・振動の発生抑制
- ④化学物質等への対策の推進

## 主な取組

- 花いっぱい運動等により、身近な緑と美しい街並みの創出を図ります。
- 公園・道路等で、緑を適切に維持管理し、快適性の向上を図ります。
- 市民・事業者と連携した清掃活動、マナー啓発等により都市美化を推進します。
- 大気・水質・騒音・振動等の測定・監視を継続し、状況を把握します。
- 発生源への指導や相談対応を適切に行い、生活環境の保全を図ります。
- 河川等の水環境の保全に向け、排水の適正管理・啓発を進めます。
- 市民の不安の低減や安心の確保につなげるため、化学物質等の適正管理と環境リスクについての情報提供を進めます。

## 関連する主な環境指標

## 花いっぱい運動事業活動団体数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
79箇所	90団体

## 美化活動に参加した市民の数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
6,120人	9,000人

二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)の環境基準の超過日数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
0日	0日

## 地下水の水質汚濁に係る環境基準不適合井戸数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
3件	2件

## 調布市での取組



調布駅前クリーン作戦

## ■市民・事業者との協働によるクリーン作戦

自治会・商店会・事業者・市民が参加し、多摩川・野川河川敷や調布駅前・飛田給駅前の清掃を実施しています。

## ■河川等の公共用水域における水質の監視

河川（多摩川、野川、仙川、入間川）及び水路（佐須の用水、深大寺の用水、府中用水）において、水質監視として水質調査や水生生物調査を実施しています。



## 基本目標3

ゼロカーボンシティが  
実現するまち

ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、市民や事業者による環境に配慮した行動を促し、ゼロカーボンシティ実現を目指します。また、気候変動に起因する近年の猛暑や豪雨など市民生活への影響を減らすための適応策にも取り組みます。



グリーンカーテン(西部公民館)

## 施策の方針・施策

## 3-1 二酸化炭素排出の削減

- ①住宅・事業所等のエネルギー効率の向上
- ②再生可能エネルギーの導入拡大
- ③地域でのエネルギー・資源の循環

## 3-2 気候変動への適応

- ①気候変動への適応

## 主な取組

- 住宅・事業所のエネルギー効率の向上(改修, 機器更新, 行動の見える化等)を促進します。
- 太陽光発電設備・蓄電池, 再エネ100%電力の利用拡大を進めます。
- 公共施設が率先して省エネ化の徹底や再エネ導入を進めます。
- EVの普及促進等の環境に配慮した移動手段の利用促進につなげます。
- 熱中症対策(情報提供等)を進め, 健康被害の抑制を図ります。
- 雨水浸透・雨水利用, 緑の活用など, 雨水流出抑制と暑さ対策を進めます。
- 災害リスクに関する周知・啓発により, 備えの行動につなげます。

## 関連する主な環境指標

市域から排出されるCO<sub>2</sub>排出量

基準値(H25年度) 目標値(R17年度)  
79.6万t-CO<sub>2</sub> ➡ 28.8万t-CO<sub>2</sub>

## 公共施設におけるエネルギー消費量

基準値(R6年度) 目標値(R12年度)  
183.0TJ ➡ 168.5TJ

市域に設置した太陽光発電システムの設備容量  
(公称最大出力)

基準値(R5年度) 目標値(R17年度)  
12,737kW ➡ 60,264kW

## 人口に占める熱中症救急搬送者数の割合

基準値(R6年度) 目標値(R17年度)  
0.1% ➡ 0.1%

## 調布市での取組

- 広報紙「ゼロカーボンシティちようふ」の発行



## ■公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業

調布まちなか発電棟が 34 施設に太陽光発電設備を設置し、平成 26 (2014) 年から発電を行っています。多摩川自然情報館では、屋根貸しによって発電された電気を購入することによる「地産地消型再生可能エネルギー 100%事業」を実施中です。





## 基本目標4

## 資源循環により環境負荷を低減するまち

廃棄物の抑制と資源循環を徹底し、使い捨てに依存しない循環型の社会・経済システムへ移行するための取組を進め、資源循環型のまちを目指します。



ごみ収集の様子

## 施策の方針・施策

## 4-1 3Rの推進による資源循環

- ①ごみの発生・排出抑制
- ②資源化の推進



調布市ごみ減量・リサイクルキャラクター  
リサッチョ エコッチョ

## 主な取組

- ごみの発生・排出抑制に向けた、行動変容と仕組みづくりを進めます。
- リユース(再利用)を広げ、不用品が循環する機会を創出します。
- 分別の徹底と資源回収の強化により、資源化を推進します。
- プラスチック製品の使用削減と、適正排出・回収・再資源化を推進します。
- 焼却量の削減により、処理に伴い発生するCO<sub>2</sub>排出量の抑制につなげます。
- 市民・事業者と連携した啓発・取組を広げ、循環型の暮らしを定着させます。

## 関連する主な環境指標

## 市民1人1日当たりの総ごみ排出量

基準値(R3年度) 目標値(R12年度)  
715g/人日 ➤ 688g/人日

## 最終処分量(埋立量)

基準値(R6年度) 目標値(R17年度)  
ゼロ ➤ ゼロ

## 主にプラスチックごみの焼却により発生する温室効果ガス排出量

基準値(R3年度) 目標値(R12年度)  
11,666t ➤ 8,718t

## 調布市での取組

## ■ごみ分別支援AI「調布ごみナビ」の導入

AI(人工知能)がごみの分別方法をLINEアプリ上で案内するなどの便利な機能を備えた「調布ごみナビ」を、相互友好協力協定を締結している国立大学法人電気通信大学及び民間事業者と共同開発し導入しました。

調布ごみナビのチラシ



基本  
目標

## 5 学び合い行動し合う共創のまち

環境への取組を行政だけでなく市民、事業者、市民団体等の多様な主体が担い手となって進めるまちの実現を目指します。



環境フェアの様子

## 施策の方針・施策

## 5-1 環境人材の育成

- ①環境情報の発信と市民の意識醸成
- ②次世代を担う子どもたちへの啓発と行動促進
- ③環境学習施設や地域施設を活用した環境学習の推進
- ④環境活動の担い手の育成

5-2 環境活動の<sup>わ</sup>環の拡大

- ①多様な主体による環境学習と活動の展開
- ②環境活動団体・個人の交流・連携の促進
- ③事業者等との連携

## 主な取組

- 市報・HP・SNS等を活用し、行動につながる環境情報を継続的に発信します。
- 子ども向けの体験型学習事業や啓発事業を推進し、次世代の担い手を育てます。
- 施設・地域での環境学習を展開し、学びの場を広げます。
- 環境活動の担い手の発掘や育成を進め、活動の継続につなげます。
- 市民団体・事業者・教育機関等との交流の場を設け、協働のきっかけをつくります。
- 事業者や大学等との連携による環境情報の発信や環境事業を推進し、地域の取組を広げます。

## 関連する主な環境指標

## 市報等による環境情報の提供回数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
214回	➤ 240回

## 活動の担い手となる人材の人数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
760人	➤ 850人

## 環境学習事業への小中学生の参加者数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
377人	➤ 1,000人

## 環境連携事業数

基準値(R6年度)	目標値(R17年度)
95回	➤ 115回

## 調布市での取組



■調布子どもエコクラブ

■雑木林ボランティア講座  
布田崖線緑地見学

■環境活動交流会



# 4 重点プロジェクト

計画  
本編

p.110~

第5章 重点プロジェクト



計画期間内に特に重視する取組を「重点プロジェクト」と位置付け、各施策を横断的に推進します。

## <重点プロジェクト選定基準>

- 1 各環境目標の牽引役となるもの
- 2 市の環境に大きな効果が期待できるもの
- 3 市の環境以外の経済面、社会面への地域課題にも副次的な効果が期待できるもの
- 4 短期的な実施性だけでなく、中期的な発展性や水平展開の可能性がある時代背景を踏まえ、緊急性があり、かつ、優先的な取組が必要である事業

## ① 水と緑でつなぐ グリーンインフラプロジェクト

### 水と緑でつなぐ グリーンインフラプロジェクト

自然が持つ多様な機能を、地域の魅力向上、防災・減災、気候変動の適応に活用し、持続可能なまちを目指します。



## ② みらいへつなぐ ちようふ ゼロカーボンプロジェクト

### みらいへつなぐ ちようふ ゼロカーボンプロジェクト

2050年までに「ゼロカーボンシティ調布」を実現。  
省エネルギー、再生可能エネルギーの導入、資源循環の強化を一体で進め、持続可能な未来への道筋を描きます。

#### 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>) 排出の削減



住宅・事業所のエネルギー効率を向上  
エネルギーの見える化や断熱改修の促進で、光熱費とCO<sub>2</sub>を削減します。



再生エネの導入を拡大  
太陽光発電と蓄電池の設置を促進し、自家消費と災害対策を進めます。



環境にやさしい移動を促進  
環境負荷の小さい自転車利用や移動手段への転換を促します。

#### 資源循環の強化 (3Rの推進)



ごみの発生・排出を抑制  
徹底した分別排出により、ごみの資源化を進めます。



焼却ごみを減らしCO<sub>2</sub>を削減  
プラスチックごみの資源化により、焼却に伴うCO<sub>2</sub>排出を抑えます。

## ③ つながる力がまちを変える 市民協働プロジェクト

### つながる力がまちを変える 市民協働プロジェクト

多様な主体が連携し、学びと実践を循環させる仕組みを構築することで、市民一人ひとりが主体的に環境活動に取り組む、持続可能なまちを目指します。

プロジェクトが目指す3つの目標



目標達成のための2つの重点施策



# 5 計画の推進体制と進行管理

計画  
本編

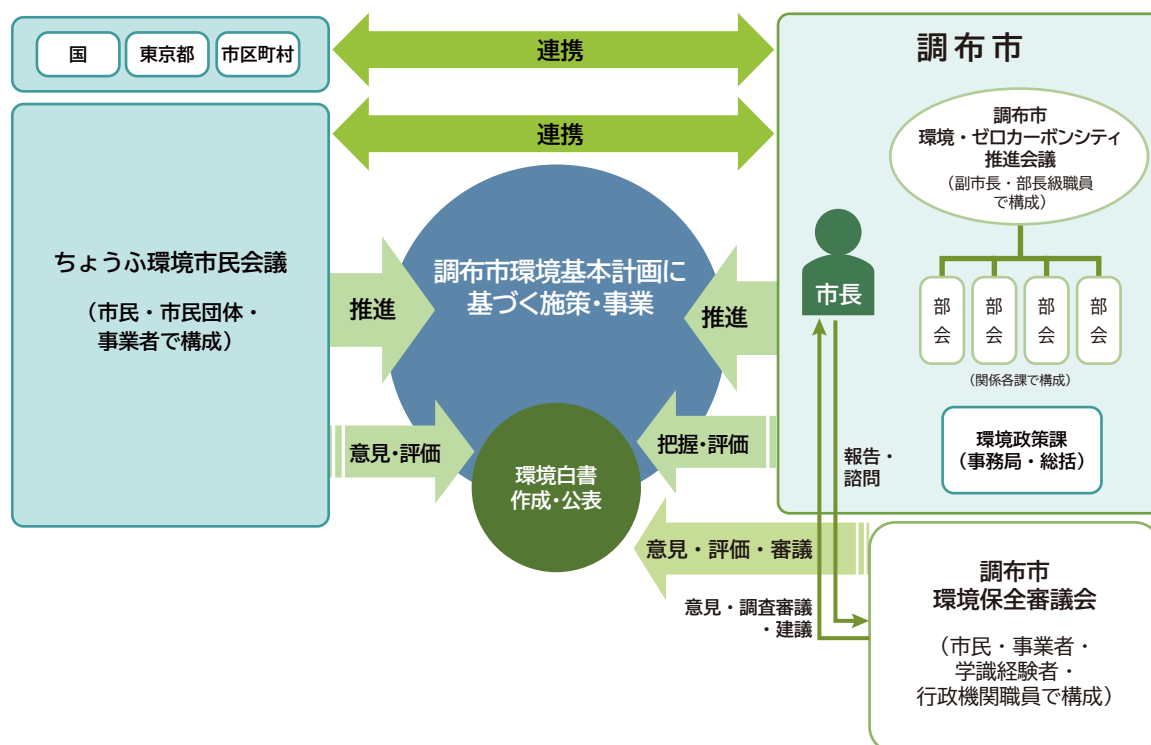
p.118～

第6章 計画の推進体制

## (1) 計画の推進体制

本計画が目指す環境の将来像の実現に向けて、本計画の着実な推進を図るためには、市民・市民団体、事業者・市といった、それぞれの主体がお互いの役割を理解し、自主的・主体的に行動することが大切です。

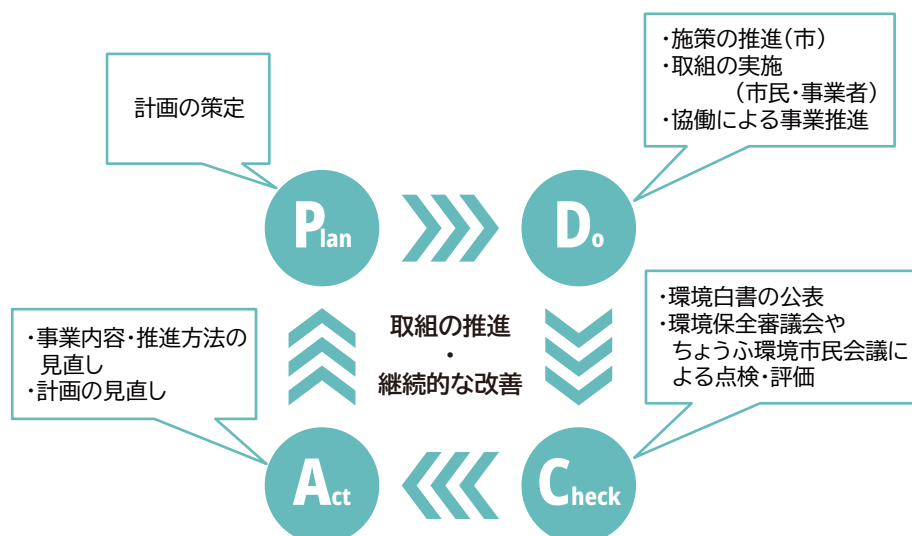
計画の推進にあたっては、下図に示す体制で各主体が連携・協働して計画を推進します。



## (2) 計画の進行管理

本計画の進行管理は、PDCAサイクルの考え方に基づき指標や施策の推進状況を定期的に確認・評価し、「調布市環境保全審議会」や「ちょうふ環境市民会議」の意見や助言を取り入れ、年度ごとに環境白書として公表します。

また、「調布市環境保全審議会」や「ちょうふ環境市民会議」をはじめ、市民・市民団体、事業者からの意見や社会情勢の変化等も考慮し、取組の改善につなげていきます。



調布市環境基本計画についての詳しいことは、こちらの二次元コードからご覧ください



調布市環境基本計画 概要版  
令和8(2026)年度 ≫ 令和17(2035)年度

調布市 環境部 環境政策課  
〒182-8511 東京都調布市小島町2-35-1  
TEL:042-481-7086・7087 FAX:042-481-7550



刊行物番号  
2025-000

再生紙を  
使用しています。

令和8(2026)年3月発行